

No.14 白井 美穂 —無題—

Mio Shirai

北川フラムさんのコラム / 1996 (平成8) 年 6月 15日付 立川市市報記事より

「六月の花嫁」は、いまだ女性の憧れだそうだが、この「階段を降りてくる花嫁」のビルボードの裏には、手に鋏をもって、こちらを挑発する女性のビルボードがかかっている。

白井美穂は若い女性作家で、既製品を組み合わせた作品を多く発表してきた。今回は三か所に「広告のない広告板」を作っており、三つのイメージで絵解きができるという凝った仕掛けである。

いずれも小さい人形を作って、それを撮影し拡大してビルボードにしたもので、それぞれが互いの分身であり、一つに限定できない現代社会における女性のイメージの解釈となっている。そして三つ目のビルボード「バーベルをもって坂道を上る女性」のごとく、白井はこの春ニューヨークに本拠地を移し、世界への挑戦を開始している。

作家のメッセージ / 日本住宅公団 (現: UR 都市機構) 「ミニ通信」より

ファーレ立川で私が設置するのは二枚のビルボードです。一枚 (No.14b) はデパートの地下のパーキングに向かうスロープの正面壁に掲げられる花嫁の、もう一枚 (No.54) は建物と建物を連結するペDESTリアンデッキの階段壁に付けられる、やはり女性の姿です。

これら二枚の掲示板には何の広告文もなく、地下への坂道を下る自動車の速度、発動力、エンジン、ドライバー(車の操作者)、あるいは実際に階段を登り下りする人々といったものが、掲示板と共にこのプロジェクトを成り立たせる要素となっています。

階段を下りてくるウェディングドレス姿の女性と、バーベルをもって森の中の坂道を登っていく女性は、作りものの風景の中の小さな人形を撮影したものであり、その写真を非常に大きく引き伸ばす印刷技術が使用されています。

交換価値、消費の欲望の対象、獲得・所有されるべき対象として花嫁の姿を借りた広告板と、移動し到達地点に向かう自動車の関係がこの作品を成立させます。通りを過ぎるわずかな時間だけの観者であるドライバーは、同時に、別の地点からは見られる対象として、意図された光景の一部となります。虚構であり、おとりとしての、広告又は女性性を巡る、循環作用を反射させるものとして私はこの作品を作りました。

これと対をなすもう一枚の掲示板の女性は、わざわざバーベルを持って重力に抗いつつ坂道を登るといふ馬鹿げた行動をとっており、前述した光景への私自身の心情とでもいふべきものを若干含んでいます。私は立川のプロジェクトにおいて、公的な現実を照らし出す虚構性を差し出すと共に、その現実に対する私的な関与が再び公共空間の中に投げ込まれる状態を作ろうと思いました。

※ 実際には作品No.14a「挑発する女性」を含めて3作品が設置されています。